

目次

- ・川崎市ごみ減量推進市民会議をご存知ですか？
- ・ミックスペーパー分別収集モデル事業の拡大にご協力願います。
- ・かわさきチャレンジ・3R推進中！
- ・ペットボトルの正しい出し方について（お願い）
- ・その他

川崎市ごみ減量推進市民会議をご存知ですか？

川崎市では、ごみ減量の取組を市民の皆さんと協働して進めていくため、市民・地域のごみに関する活動を行っている廃棄物減量指導員や市民活動団体を中心に、「川崎市ごみ減量推進市民会議」を平成19年1月に設置しました。この会議では、市民・事業者・行政のパートナーシップに基づき、市民の皆さんが地域や家庭で自主的に、また日常的にごみの減量・リサイクルに取り組めるような仕組みづくりを話し合っています。

会議では、3つのテーマについて、ほぼ月1回のペースで勉強会を開き、それぞれのテーマに沿って活動を進めています。

- 【活動その１】 事業者との連携によるごみ減量
【活動その２】 地域におけるごみ減量
【活動その３】 生ごみの減量

◆詳しくは「川崎市ごみ減量推進市民会議」のホームページをご覧ください。

<http://www.city.kawasaki.jp/30/30genryo/home/siminkaigi/index.htm>



活動その1 事業者との連携によるごみ減量

**環境配慮型ライフスタイルの確立に向けた
レジ袋削減に関する協定を締結しました！**

買い物にはマイバックを持ちましょう！



川崎市ごみ減量推進市民会議では、レジ袋の削減に向けて、アンケート調査や事業者との意見交換会などの取組を行ってきました。その結果として、平成19年10月2日（火）に、小田急商事、コープかながわ、川崎市ごみ減量推進市民会議、川崎市地球温暖化対策推進協議会、川崎市の5者で「環境配慮型ライフスタイルの確立に向けたレジ袋削減に関する協定」を締結しました。

この協定では、事業者はレジ袋の有料化を通じてレジ袋の削減を目指し、市民はマイバッグなどの利用を心がけるとともに、レジ袋削減に努める事業者の取組を応援します。また、市はこうした事業者や市民の自主的な取組を市の広報などを通じて促進していきます。協定を通じて、市民・事業者・行政が協働しながら環境配慮型ライフスタイルの確立に向けて取り組んでいきます。



「環境配慮型ライフスタイルの確立に向けたレジ袋削減に関する協定」締結式



Odakyu OX



コープかながわ

川崎市ごみ
減量推進
市民会議

かわさき地球
温暖化対策
推進協議会

活動その2 地域におけるごみ減量

11月11日（日）川崎市教育文化会館にて「ごみニティの底力・発表大会」を開催しました。市内の町内会・自治会、市民グループ、学校などで、ごみの3Rに取り組んでいる8団体がそれぞれの地域での活動事例を発表しました。

写真は発表大会の様子です。各団体、持ち時間10分という短い時間の中でより多くの人たちに伝わるよう創意工夫をしていました。発表内容についても、他の地域で活用できそうな事例が多く、充実した発表大会となりました。



活動その3 生ごみの減量

生ごみを減量するには、まず家庭から。日々の生活の中で、市民一人一人が取り組むことで少しずつでもごみを減らしていきたい。そのために生ごみをどう減らせばいいか、それをどう市民の皆さんに伝えればいいか。

そこで、生ごみ減量に向けた提案や様々な情報を盛り込んだ小冊子を作成することになりました。

題して「チャレンジ生ごみダイエット（仮）」。

現在内容に関して意見交換の真っ最中です。

小冊子には、生ごみの減量・リサイクルの方法など市民の皆さんが冊子を見れば取組めるようなものを作成していく予定ですのでご期待ください。

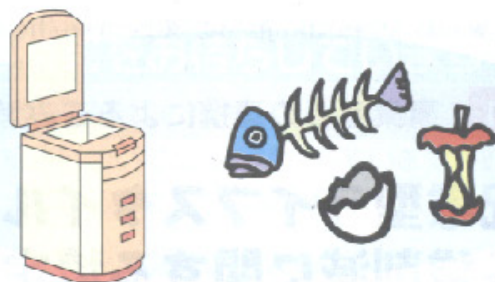


川崎市生ごみリサイクルリーダー制度

～ご家庭に生ごみリサイクルリーダーを派遣します！～

川崎市では、生ごみコンポスト化容器や電動生ごみ処理機などの購入費の一部を助成するなど、家庭での生ごみリサイクルを推進しています。

しかし、コンポスト化容器等を用いてリサイクルを試みても虫がわいたり臭いが出たりして途中で断念してしまう方、リサイクルはしたいが手法が分からないという方がいます。そうした方々が楽しく、継続して生ごみのリサイクルに取り組んでいただけるよう、今年10月、経験・技能・知識の豊富な市民を「生ごみリサイクルリーダー」として認定しました。リーダーは、相談者のもとへ出向いての実地指導や電話等による相談受付・指導を行います。また、町会などで講習会を開催したい場合には、講師として派遣します。詳しくは、環境局廃棄物政策担当にお問い合わせください。



お問い合わせ・申し込み先：環境局廃棄物政策担当
電話 200-2605 FAX 200-3923

ミックスペーパー分別収集モデル事業の拡大にご協力願います。

平成18年11月から川崎区・幸区の一部地域でミックスペーパー（雑かみ）の分別収集モデル事業を実施しています。平成20年4月からは、市内全区の一部地域（約10万世帯）に拡大します。

モデル事業の対象となっている地域の皆さんには、住民説明会の開催やリーフレット配布等によりお知らせしてまいりますので、ご協力をお願いします。



収集したミックスペーパーは、トイレトペーパーに生まれ変わります。

かわさきチャレンジ・3R（一般廃棄物処理基本計画）推進中！！

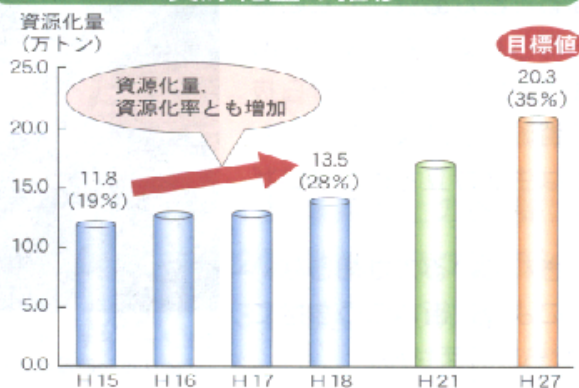
平成17年4月に策定した廃棄物処理の中・長期的な基本計画「かわさきチャレンジ・3R」では、市民・事業者・行政が一丸となって3Rを基本としたごみの減量・リサイクルを推進していくため、

①ごみの発生抑制の推進 ②リサイクルの推進 ③焼却量の削減

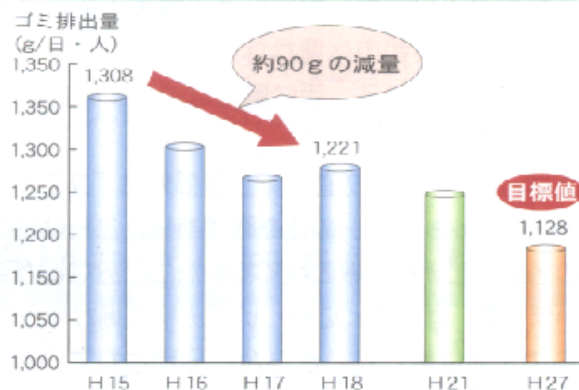
の実現に向け、ごみ排出量、資源化量・資源化率、ごみ焼却量について、平成15年度の実績数値を基準に、平成27年度までに達成すべき数値目標を設定しています。

平成18年度には、資源化量・資源化率は引き続き増加の傾向を示し、平成15年度と比較して1万7千トンの増加となりました。また市民1人1日当たりのごみ排出量が1,221グラムとなり、15年度に比べ約90グラムの減量を実現し、ごみ焼却量は463,131トンと15年度実績よりも約4万トンの削減となりました。しかしながら、市民1人1日当たりごみ排出量・ごみ焼却量とも平成17年度実績と比べると若干増加していること、また資源化量の増加傾向が緩やかであることから、今以上の減量化・リサイクルへの取組が必要となっています。

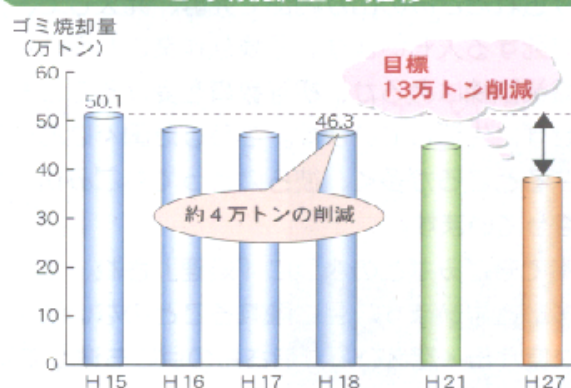
資源化量の推移



一人一日あたりごみ排出量の推移



ごみ焼却量の推移



「地球環境にやさしい持続可能な循環型のまち」を目指し、これからも川崎市は各目標の達成に向けて取り組んでまいりますので、市民・事業者の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

ペットボトルの正しい出し方について（お願い）

市では、資源物としてペットボトルを週1回収集していますが、多くのペットボトルがキャップやラベルが付いたままの状態です。

ペットボトルの「本体」と「キャップ・ラベル」は、プラスチックの種類が異なるため、リサイクルの妨げとなっています。ペットボトルの出し方を守るだけで、環境負荷を軽減し、貴重な資源の節約に貢献することができます。

ちょっとした心配りがごみの減量・リサイクル、ひいては地球環境の保全につながっていきます。皆さんも今日から正しいペットボトルの出し方を心がけてください。

<ペットボトルの出し方>



ペットボトルとは・・・

「ペット(PET)」は「ポリ(P)エチレン(E)テレフタレート(T)」の略称。PET樹脂で作られたボトルのことをペットボトルと呼びます。



ちょっと一息…

「日本」と「アジア」のごみ処事情…

私たちの住む日本では、基本的に家庭のごみは、まず各家庭において分別排出され、各市町村により適正に資源化や焼却・埋立処理されます。

では、日本を取り巻くアジアの国々のごみ処事情はどうでしょうか。

多くのアジアの国々には、「スカベンジャー」と呼ばれる人々が大勢います。「スカベンジャー」とは、ごみ捨て場のごみの中から金属などの換金可能なごみを拾って生活をしている人々のことです。彼らの多くは、地方の農村部から都市へ豊かな生活を夢見てやって来た人々で、十分な貯えもなく、都会へ行けばなんとかなると思っていたところ、手に職もなく、十分な教育も受けていない彼らがとりあえず日銭を稼ぐため、「スカベンジャー」となるのです。

例えば、フィリピンの首都マニラ郊外に「スモーキーマウンテン」と呼ばれる巨大なごみ捨て場があり、その周辺に「スカベンジャー」の住む町があり、これは日本のテレビなどでも紹介されています。「スモーキーマウンテン」の名は、ごみ捨て場に捨てられた生ごみなどが発酵して、絶えず煙をあげていることに由来し、現在は閉鎖されていますが、すぐ近くに新しいごみ捨て場が作られ、そこで「スカベンジャー」の生活は続いています。

彼らの生活は厳しく、きちんと分別されていないごみの中には、病院などから出された医療廃棄物も混じっており、そこから感染症にかかる人も大勢います。また、積み上げられたごみの山が内部で発酵、発火して、突然陥没することがあり、そこに落ちて焼死する人もいます。危険な作業にも関わらず、そこから得られる収入は僅かであり、職業訓練はおろか、初等教育を受けることもできない子供たちが一生そこから抜け出せずに生活しています。こうした国々におけるごみの「資源化」はスカベンジャーによるところが多く、彼らにとってもごみ捨て場なくしては生活が立ち行かない状況となっています。

日本でもごみがどのように「処理」され、また「資源化」されているのか知らない人が多いと思います。目に触れることの無い現実を知ることにより、街角にうち捨てられた空き缶・空きびんが皆さんの目にも違って見えてくるかもしれません。



岩波フォトドキュメンタリー
「フィリピンの最底辺」より



ごみの減量・リサイクルに役立つ情報をお待ちしています！

平成17年度に発行を開始した3Rニュースも今年度で3周年を迎えます。3Rニュースでは、市民の皆さんが日々行っている、ごみの減量・リサイクルに向けた取り組みについても広く紹介していきたいと考えています。ごみの減量・リサイクルに役立つ情報、町内会等で行っているユニークな取り組み等ございましたら環境局廃棄物政策担当までどしどしお寄せください。

ごみ減量・リサイクル推進の ボランティア・リーダー

廃棄物減量指導員にご協力ください。

廃棄物減量指導員は町内会・自治会などの住民組織団体から推薦を受けて、市長が委嘱し、ごみ排出方法の遵守指導や、ごみ減量の普及啓発などの活動を行っている地域のボランティア・リーダーです。



編集後記



地球温暖化問題に警告を発し続けてきた前アメリカ副大統領アル・ゴア氏のノーベル平和賞受賞の一報を聞きながらふと思いました。地球温暖化対策の一環としてバイオ燃料の利用が進められ、そのバイオ燃料の原料となる穀物価格が世界的に高騰し、我らが庶民の味方カップ麺もその煽りで値上げされるとのこと。「風が吹けば桶屋がもうかる」的な連鎖の環の中に自分たちは生きているのだとあらためて実感している今日この頃です。(T)

編集・発行／〒210-8577（住所はなくても届きます）川崎市環境局廃棄物政策担当

（電話）200-2580（電子メール）30haise@city.kawasaki.jp

ごみ・リサイクルに関するHP/<http://www.city.kawasaki.jp/30/30genryo/home/menu.htm>

re100
ごみ減量100%のまちづくりを推進しています